

4年	特に育成したい能力や態度 (具体的な数字や言葉で記載する) 2～3にしぼる。	授業改善の視点と具体的な方策 (具体的に達成すべき数値目標を記載する) 左側のものとリンク【対応させる】	達成率【割合】 A・・・90%以上の児童 B・・・90～80%の児童 C・・・80～70%の児童 D・・・70%以下の児童
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を確実に定着させる。 読解的文章では、登場人物の心情や様子を文章に正対して読み取ることができるようにする。 説明的文章では、根拠を明確にして筆者の考えを説明できるようにする。 テーマに正対して、自分が思ったことや考えたことを、自分の力でしっかりと書き記すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期の前半で新出漢字の学習を終わらせ、後半は宿題を通して習熟の時間を確保する。 既習の漢字について、文章の中で積極的に使うように声を掛け、丁寧にチェックして指導する。 音読の宿題に力を入れ、文章の内容を頭に入れた上で授業に臨ませる。 文章にアンダーラインや書き込みをさせ、そこから疑問点や発問を出したり、答えを考えたりできるようにする。 単元当初に相手意識をもたせた上で、構成メモを作成する際、常にテーマに立ち返って考えさせる。校正を丁寧に行う。 	<p>(成果) 漢字については、学期の後半で習熟時間を確保できたので、児童は自信をもって書けるようになってきた。文章に書き込みをしたことで、文章に正対した疑問や発問、意見が出るようになってきた。 (達成率 B)</p> <p>(課題) 既習の漢字を使うことがなかなかできない。文章の更なる丁寧な校正が必要である。</p>
社会	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県名や東京都の区市町村名を覚える。 地図や資料を使って読み取ったことから、社会的事象の見方・考え方を働かせて、考察したり、説明したりできるようにする。 社会的事象から学習問題を見出したり、学習したことを使って、日常生活に生かせることを考えられたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県名については、国語の漢字学習を用いて習熟を図る。区市町村名については、タブレット PC などのクイズやパズルを用いて興味をもたせ、繰り返し取り組み習熟させる。 必ず、「資料のどこを見たのか」「それが問いどう繋がるのか」など、根拠を明確にするように声を掛ける。 授業の中で、常に学習内容と身近な生活を比較させて考えさせる。振り返りやまとめのミニ新聞を活用し、自分が考えたことを記すようにさせる。 	<p>(成果) ミニ新聞の作成が、児童の中に定着した。「この单元ではここ」というように、自分が理解したことや印象に残ったことを、スムーズに書くことができるようになってきた。 (達成率 B)</p> <p>(課題) 都道府県名や区市町村名について、プリント類などの用意がなか</p>

			なかでできず、苦勞した。更なる工夫が必要である。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り上がり、繰り下がり、九九など基礎的な計算を定着させる。 ・ かけ算九九を正確に身に付ける。 ・ 定規や分度器、コンパスなどを正しく使うことができる。 ・ 文章題などにおいて、問題に正対して答えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の始めに、9～25マス計算を行い、習熟を図る。 ・ 宿題で、継続的に既習事項の復習を行う。 ・ かけ算九九のいろいろな問題プリントやデジタルドリルなどを活用し、繰り返し復習する。覚えることに苦手感をもつ児童には、場面によって九九表を用いて、かけ算九九を正しく覚えさせる。 ・ 分度器を使用する際、どちらから数字を読むのか（右からか左からか）を、その都度確認して確実に角度を読めるようにさせる。様々な場面で、ミニ定規や三角定規を用いて線を引く活動を取り入れ、定規を手でしっかり押さえて使う習慣を付けさせる。 ・ 問題を全体で確認し、問いと答え方を押さえてから問題に取り組ませる。 	<p>(成果) 授業の始めの計算タイムは、授業へのスイッチオンになっている。九九表を提示することで、安心して計算に取り組める児童がいた。問題について問いと答え方を押さえてから取り組ませることで、何をすればよいのかが明確になった。(達成率C)</p> <p>(課題) 授業で理解できていても、テストをしたり、少し間をおいたりすると、忘れてしまう。定規、分度器、コンパスの使い方も同様である。もっと計画的に練習機会を入れていく必要がある。</p>
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題→予想→実験→結果→考察という理科学習の流れを理解して、学習に臨むことができる。 ・ 実験の際は、根拠を明確にして予想したり、考察の際自分の言葉でまとめたり、説明したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題、予想、実験、考察、まとめの表示を黒板にすることで、授業に見通しをもたせる。 ・ 授業の流れと同じノート作りを繰り返し行うことで、学習の流れを理解させる。 ・ 児童が予想すると考えられる言葉を用意し、そこから自分の考えを書かせるようにする。 ・ 実験でまとめた表やグラフから実験結果を客観的に捉えさせ、理由を述べながら自分の言葉でまとめさせる。最初は、全体で考えながら経験を積みせ、徐々に一人一人自分の言葉で書けるようにさせていく。 	<p>(成果) 理科学習の流れは、児童の中に定着した。予想の際は、何について考えればよいのかを明確にすることで、問題に正対して答えられるようになった。(達成率B)</p> <p>(課題) 全体で考えることはできるが、一人一人の</p>

			考察という点ではまだまだである。根拠を明らかにしてという面でも、このような活動を継続していく必要がある。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 単に教材文を読むだけではなく、興味や関心をもって自分ごととして考えられるようにする。 教材を通して考えたことや思ったことを自分の言葉でノートに書けるようにする。 日常生活の中で、学習したことを思い出し、よりよく行動していこうとする態度をとることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材に関する教材（写真、教材文につながる話等）を準備し、日頃の児童自身の行動と比べさせながら振り返らせる。 児童が感じたこと、考えたこと、思ったことを発表させ、板書していく。書くことが思い付かない児童には、板書や友達の意見を参考にノートに書くように声を掛け、徐々に自分の力で書けるようにしていく。 学習したことを学校生活の中で、折に触れて声掛けしていく。児童が気付いたり行動していこうとしたりする場面で、児童の態度や取組を褒めていく。また、他の児童へも頑張ったことを教師から伝えていく。 	<p>(成果) どの児童も、ワークシートに自分の考えを書くことができるようになってきた。(達成率B)</p> <p>(課題) 学習したことと日常生活が繋がらない場面が見られた。普段の学級指導の中で、もう少し意図的に扱っていく必要がある。</p>